

令和元年度野田市岩木小学校老人デイサービスセンター 指定管理者管理運営状況調書

担当課 高齢者支援課

評価基準	評価項目	指定管理者 自己評価	担当課評価	特記事項
利用者の平等利用を確保されること	①利用者の平等利用の確保	B	B	
施設の効用（設置目的）を最大限に発揮されるものであること	①サービス向上（質の確保）のための方策	B	B	
	②生活指導や適切な日常動作訓練等のための方策	B	B	
	③日常生活の総合的支援に関する具体的な方策	B	B	
	④介護に対する家族との協力等についての方策	B	B	
健康管理が適切であること	①健康チェックや給食提供の際の栄養管理について	B	B	
衛生管理が適切であること	①施設や給食、入浴サービスの際の衛生管理について	B	B	
個人情報の適切な保護が図られていること	①個人情報保護のための方策	B	B	
緊急時の危機管理体制が確立されているか	①迅速かつ適切な苦情解決のための仕組み	B	B	
	②危機管理のための具体的な方策	B	B	
	③防災・防犯のための方策	B	B	
現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること	①現金の取扱い等の経理処理が適切に行われるための方策	B	B	
管理経費の縮減が図られていること	①管理費縮減のための方策	B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際し、地元業者へ配慮する	①地元住民の雇用計画、物品及び役務の調達に係る地元業者への配慮につ	B	B	

こと	いて			
事業計画に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	①経営基盤の安定及び事業計画について	B	B	
	②職員配置及び資格について	B	B	
	③職員の指揮監督・管理体制について	B	B	
	④人材育成（研修）について	B	B	

総合所見

当該施設は、令和元年度から令和5年度までの指定期間で利用料金制及び指定管理料により運営を行っている。

利用登録者数の推移は、4月は62人、6、7月が64人と増加傾向にあったが、8月で60人、12月で58人と減少、延利用者数は4,280人となっている。1日当たりの利用者数に換算すると、昨年度は19.3人であったが、今年度は12月末時点で1人少ない18.3人となっている。利用者の減少により利用料収入が、12月末時点で30,650千円と昨年度の同時期と比べて1,642千円の減収となった。

このような状況から、3月までの延利用者数を5,672人、利用料収入を40,719千円とし、指定管理料及びその他収入を合計した総収入を42,357千円と見込んでいる。

なお、指定管理者では、令和元年10月からの消費税率引き上げに伴う介護報酬改定において、「介護職員特定処遇改善加算」が創設されたことに伴い、利用料金収入等の補正を行っているが、積算時期が8月上旬のため、当初予算設定時の利用者数によるものとしており、利用者の推移を反映させたものではないため、予算額と決算見込み額の差が1,902千円と大きくなっている。

また、支出では、特定処遇改善加算による常勤職員及び非常勤職員の賃金を補正で追加計上し、人件費等の支出を29,490千円とした。

決算見込みでは、非常勤職員1名が退職したことにより、人件費の支出が抑えられたこと、管理費及び事務費等では、福利厚生費、保健衛生費、教養娯楽費及び水道光熱費等の支出が抑えられていることから、支出合計を42,332千円とした。これにより、収支は25千円の黒字と見込んでいる。

業務内容については、リハビリ体操、脳機能訓練及び口腔ケア等の利用者の日常動作における機能訓練を充実させていること、手洗い、うがい等による感染症予防、血圧測定による健康チェック、連絡帳による利用者家族への健康状態の報告、昼食には栄養バランスの取れた食事の提供、消耗品等の経費削減にも努めていることから、仕様書に基づいた運営を行っていることが確認できた。

施設の点検を令和元年11月25日に実施し、浴室のタイルのひび、浴室ドアのゴムパッキン部分の剥離、和室敷居テープの剥がれ、テーブルのがたつきを確認した。利用者の安全性等を考慮し、修繕の時期等について指定管理者と協議し対応していく。

以上のことから、管理運営について指定管理者として問題がないものと判断する。